

# 南海・中谷信夫投手関連資料

野球殿堂博物館では、19年10月、1950年代にかけて南海ホークスで活躍した中谷信夫投手のご家族より、同氏の関連資料をご寄贈いただきました。

「南海ホークス40年史」によると、中谷投手は戦前の京都市立第一工業(現・市立洛陽工業高校)時代にすでに南海が注目していた選手でしたが、立命館大学へ進学。41年12月から終戦前の45年4月まで兵役についた後、46年は門司鉄道局でプレー。翌47年、27歳の年に「たとえ1年でも2年でもプロで投げることができるなら…」と南海に入団しました。

初年度の47年は15勝18敗、防御率2.40の成績を残し迎えた48年、開幕から12連勝の快記録(前年の阪神・御園生崇男投手の13連勝に次ぐ記録)を達成し、南海のスタートダッシュに貢献。シーズン成績を21勝12敗、防御率1.98とし、南海の2度目の優勝に大きく貢献しました。また、2リーグ制のスタートした翌年の51年には、

14勝2敗、勝率.875で最高勝率(最優秀投手)のタイトルを受賞、今回このペナントもご寄贈いただいています。

中谷投手は1955年まで通算90勝をあげ、終戦後のホークスを支える活躍を見せました。その後、1960年まで投手コーチを務め、92年に72歳で亡くなりました。

今回、ご家族よりお申し出があり、コーチ時代の球団初の日本シリーズ制覇となった1959年優勝ペナント(記念品、写真左)や、現役時代のお写真(写真右)などをご寄贈いただきました。当館では、こうしたプロ野球やアマチュア野球に関する資

料の収集を行っています。収蔵場所の問題もありすべてを収蔵できるわけではありませんが、会員の皆様からのお声がけ、ご相談をお待ちしております。

公益財団法人 野球殿堂博物館  
学芸員 関口貴広



南海1959年優勝ペナント(記念品)



中谷投手の投球フォーム